

**2011年 12月 石原社長定例記者会見概要**

12月6日午後1時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<横浜ベイスターズ>

多くのファンの皆様や選手の皆さんに大変ご心配をおかけしたが、ようやく DeNA への譲渡が承認されホッとしている。DeNA はプロ野球への熱い情熱、横浜への強い愛着をお持ちなので、ファンや地元の方々と力を合わせて、より強いベイスターズ、より愛されるベイスターズになるよう期待している。TBS としても、引き続きメディアとしての立場で、ベイスターズを応援していきたいと考えている。

<総括と抱負>

3月11日の東日本大震災を抜きにして語ることは出来ない。ライフラインの一翼を担う報道機関としての責任の重さを改めて感じた一年だった。また震災で傷つかれた皆さんに対して、少しでも心を癒すことができればと考え、「絆プロジェクト」を立ち上げ番組作りに取り組んだ。視聴者の方からも一定の評価をいただけたのではないかと考えている。今後も三陸支局は継続し、福島原発問題もあるので、腰を据えて取材し伝えていきたいと考えている。

番組では『JIN-仁-』や『世界陸上』など良いコンテンツをお届けできたと思っているが、番組以外では、楽天との当社株式を巡る裁判がようやく決着、ベイスターズの譲渡も無事 DeNA へ完了できた。大きな懸案が片付いた年でもあった。12月25日のクリスマスに TBS は開局 60 周年を迎えるが、いろいろな意味で区切りの年であったと思う。60年というのは干支も一回りする節目の年なので、新たな気持ちで、番組はもちろんのこと、新規ビジネスなども積極果敢に進めていきたいと思っている。

<編成関連>

全日帯は好調、GP 帯についてはなかなか思うような結果が出ていないが『炎の体育会 TV』や『爆報！ THE フライデー』など今後期待できるような新番組が出てきている。今年の年末編成では、12月25日(日)に報道特別番組『報道の日 2011～記憶と記録そして願い～』を午前8時から15時間規模で放送する。大震災や原発事故を検証し、未来への教訓や明日へ向けた前向きなメッセージをお伝えしたいと考えている。また恒例の『輝く！日本レコード大賞』のほか、報道・情報にエンターテインメント、そしてスポーツイベントの中継と、この年末年始も、多彩なコンテンツを揃えている。

<営業関連>

第3四半期のタイムはレギュラーセールスは前年並みだが、昨年のような「世界バレー」「60周年ドラマ」といった大型単発がないので、全体としては昨年実績を下回りそうだ。

年末年始のセールスについては、現在作業を進めているところ。一方スポットは、10月、11月とも好調に推移している。12月は、タイの洪水の影響でキャンペーンのキャンセルや延期が出て勢いが鈍っていたが、ここにきて自動車メーカーがキャンペーンを再開するなど持ち直しの動きも見られる。1月以降は今のところ不透明だが、何とか前年実績を超えるよう頑張ってもらっている。

<赤坂サカス・事業関連>

冬恒例となった屋外アイススケートリンクを11月18日にオープンした。今回は特別協賛にトヨタ自動車がつき、「ホワイトサカス アルファード・リンク」として来年2月19日まで営業する。オープン記念として、テレビ・ラジオ番組と連動した平日無料キャンペーンを行った効果もあり、連日多くの家族連れのお客様で賑わっている。今年は、180万人の来場者を目標にしているが、事故にはくれぐれも注意するよう指示している。

12月3日(土)映画「けいおん！」が全国137館で公開された。熱烈なファンの方々に足をお運びいただき、この土・日で興行収入3億1600万円、動員23万7800人と大ヒットスタートとなった。今週末12月10日(土)には、映画「源氏物語～千年の謎～」が全国東宝系で公開される。豪華キャストで贈るお正月映画に相応しい壮大な歴史エンターテインメントに仕上がっているので期待している。

今年7月から9月金曜ドラマで放送した『美男ですね』のDVDセールスが大変好調なスタートを切った。「初回2時間スペシャル・エディション」の初回出荷数が4万3千枚、第2話から最終話を収録した「コンプリートDVD-BOX」も4万セットを超えるセールスが見込まれている。

<日本経済新聞との業務提携について>

今回の業務提携は資本提携を前提にしたものではない。デジタル化によってメディア環境が激変する中で、新しいことにチャレンジしていくには、日本経済新聞の持つ経済情報、企業情報、マーケット情報などと、当社が持つ映像コンテンツやエンターテインメント制作力が連携することが最適と判断した。

<ラジオ関連> TBSR&C 加藤社長

東日本大震災で改めてラジオメディアの責任と使命を認識。将来に向けて貴重な議論・検討を行う契機となった。営業面では震災の影響が懸念された上半期の業績はまずまずの結果、下半期は想定以上に厳しく予断を許さない。編成面では6月の首都圏個人聴取率調査で10年60期連続トップを達成できたのは喜ばしい出来事だった。9月の60周年記念イベント「感謝 DE サカス」を盛況に終えたことで底力を実証し今後に向かって大きな活力を得られたと考える。

10月の聴取率調査の結果62期連続のトップとなったがTBSラジオの数字もセットインユースも下落しており、厳しい結果と受け止めている。ラジオ東京として開局から満60年を迎える12月25日までの3日間「60周年特別編成」を実施、年末年始も恒例の番組をはじめ特別番組を編成する。環境関連では12月15日(木)から開催される「エコプロダクツ2011」に昨年に引き続きTBSテレビと共同で出展、2002年7月から実施しているTBSラジオ環境キャンペーンの第20期を、来年1月30日(月)から実施する。

以上